



World Year of PHYSICS 2005 世界物理年
 アインシュタインの「奇跡の年1905年」から100周年を記念して

新作 多田 富雄 作
 "THE HERMIT ISSEKI"
 Modern Noh Play by TOMIO TADA

いっせきせんじん
 EINSTEIN

石仙人

【プログラム】

① パネル・トーク「なぜ今、アインシュタインか」

野村 四郎 (観世流シテ方 / 東京藝術大学名誉教授)
 大西 仁 (東北大学理事 / 日本バグウォッシュ会議代表)
 北澤 宏一 (独立行政法人 科学技術振興機構理事)
 北原 和夫 (国際基督教大学教授)

② 新作能 一石仙人

終演予定：午後9時

【キャスト】

前シテ・羊飼いの老人	清水 寛二		
後シテ・一石仙人			
ツレ・女学者	味方 玄	地謡	西村 高夫
ワキ・従者	安田 登		小早川 修
子方・核子	小早川 静佳		柴田 稔
	小早川 康充		泉 雅一郎
アイ・早打	野村 万蔵		八田 達弥
"・従者	野村 扇丞		野村 昌司
	藤田 六郎兵衛		長山 桂三
小鼓	幸 信吾		谷本 健吾
大鼓	大倉 正之助	後見	野村 四郎
太鼓	助川 治		浅見 慈一

【ストーリー】

舞台はユーラシア大陸の果ての沙漠。日蝕のにわかの中を往く旅の女が、どこからともなく現れた羊飼いの老人に呼び止められる。女は老人とともに、時間と空間がゆがみ、光が重力でねじ曲げられるという奇怪な現象を目の当たりにする。いつのまにか、老人は日蝕を晴らし、砂嵐に乗って飛び去ってゆく。

アイ狂言が現れ語り聞かせる不思議な物語は有名な相対性理論の時間の伸び縮み現象の話。双子の片方が天狗にさらわれ宙を飛んで帰ってきたときには、不思議にも、双子のもう片方は年上になっていたという。

やがて、容貌魁偉な「茗荷悪尉」の面を着けた一石仙人(アインシュタイン)が現れ、膨張する宇宙の神秘を語り、ついにはあたりに核子を解放し……

アインシュタインが今、時空を超えて人類に語りかけるメッセージとは?!

【作者のことば】

私の新作能「一石仙人」は2003年の5月、横浜能楽堂における飛天双輪能で初演されてから、短期間のうちに計5回の上演をしています。回を重ねるたびに、新しい発見と演出の工夫がなされるのも、新作能の楽しみのひとつです。このたび世界物理年の公演のために、大幅な書き直しをし、新しい演出の試みがなされるので、わくわくして上演を待っています。

この能の主人公はアインシュタインです。現代物理学の父が、時空を超えて語りかけるメッセージに耳を傾けましょう。

またこの作品を通して、特に若い世代の人に、古典の能の美しさと現代的主題の結合の妙を満喫してもらいたいと心から願っています。



多田 富雄

東京大学名誉教授。国際免疫学会会長。東京理科大学生命科学研究所所長などを歴任。1971年に抑制T細胞を発見。朝日賞、エミール・フォン・ペーリング賞など受賞多数。1984年、文化功労者。新作能「無明の井」「望恨歌」は国内外で上演を重ねる。著書に「免疫の意味論」(大佛次郎賞)「生命の意味論」「脳の中の能舞台」「独酌余滴」(日本エッセイスト・クラブ賞)詩集「歌占」など。



「一石仙人」金沢公演より
 (北國新聞社提供)

【ごあいさつ】

今からちょうど100年前、アインシュタインは、現代物理学の基礎をなす、三つの理論、すなわち光電効果の理論、ブラウン運動の理論及び特殊相対性理論を発表しました。この三つの偉大な業績を1年の間にまとめ上げたことは、ほんとうに驚くべきことであり、後年、この年は物理学にとって「奇跡の年」と言われるようになります。そして、現在、これらの純粋理論は、いずれも私たちの生活に身近な技術となって応用されています。

「奇跡の年」から100周年にあたる2005年(平成17年)は、国際連合総会によって「世界物理年」とすることが決議され、世界中で物理の楽しさ、重要さを伝える活動が展開されています。

わが国においては、日本物理学会、応用物理学会などの学会が中心になって、文部科学省の協力を得て、「世界物理年日本委員会」を設立し、狭い物理学の分野に止まらず広く科学と技術の分野に関わる団体として、一致して活動を進めています。

4月23日、世界物理年日本委員会は、「科学と技術、地球環境と人類の未来のための東京宣言」を採択し発表しました。この宣言では、20世紀に驚くべき発展を遂げた科学と技術を、21世紀においても地球と人類の未来に対して責任あるものとするために、科学者と技術者をはじめとして、すべての人々が共有すべき基礎理念を提起しています。

本日の「一石仙人」は、この東京宣言の底流をなす「科学の役割と世界の平和」をテーマにしています。この公演を準備する段階では、物理学者と能楽師が、おそらくは初めてことである「科学と芸術のコラボレーション」を行いました。

21世紀中に、地球を荒廃した天体にしないこと、人類が滅亡することなく、文化を永續発展させることを思い起こしながら、一人でも多くの方にこの公演を見ていただければ幸いです。

世界物理年日本委員会
 会長 有馬 朗人

世界物理年日本委員会事務局

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館内
 tel. 03-3212-4785 / fax. 03-3212-7790
 e-mail. wyp2005@jsf.or.jp
 URL. <http://www.wyp2005.jp/>